

【20】暮らしのなかに息づく伝統・文化

これまで「あわ文化」について学んできたことに基づいて、なぜ「あわ文化」が長く継承されてきたのか、理由を説明しよう。また、どうすれば「あわ文化」を未来に向けて継承できるか、具体的な方法を提案しよう。



三好市池田町三所神社の川崎獅子太鼓



徳島市阿波おどり会館の阿波おどり



本藍染め矢野工場での藍染体験

藍染めで製品化された日傘



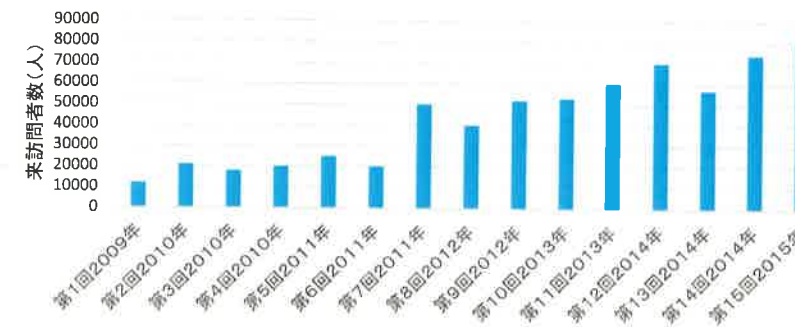
昭和南海地震津波の最高潮位標識



津波十訓(海陽町)



徳島県立城南高等学校野球部創立百周年記念碑



神山アーティスト・イン・レジデンス

上にある2つの写真のおどりを比較して、気づいたことを言ってみよう。



過去からの文化の継承

私たちの徳島には、昔から語り引き継がれている様々な文化遺産があります。それは、阿波おどりや人形浄瑠璃などの著名なものに限らず、それぞれの町に根付いた伝統的な芸能や催しなども含まれます。

これらの文化が長く受け継がれてきた第1の理由は、それが地域の人々の生活と深く結びついてきたからです。地域の年中行事や地場産業、思い出の景観(原風景)として人々の生活に深く結びついているものほど、人々に愛され、継承されていきます。

第2の理由は、社会の変化に応じて性格を変えてきたからです。伝統的な催しも、規模を大きくしたり、国内外の観光客にみってもらうことで、地元で経済的な利益をもたらすことができます(観光化)。伝統的な特産品も、現代のライフスタイルに適応した商品に生まれ変わることで、新しい顧客をつかむことができます(商品化)。

博物館は、これらの文化を保管し展示することで、古くからの姿や新しい姿を伝える役割を果たしています。また、人々が地域の文化について知り、学ぶ場ともなっています。

未来への文化の創造

私たちは、徳島の伝統的な文化を受け継ぐ継承者であると同時に

に、新しい文化を生み出し発信していく創造者でもあります。

皆さんの中には、小学校の卒業時に記念植樹をしたり、記念碑を建てたり、文集をつくった人がいるでしょう。時間とともに忘れられていく貴重な記憶も、文字(写真や音声)などの記録に残しておくことで、それを後世に受け渡すことができます。県南の各地に残されている地震・津波碑は、その例です。

私たちが創っている文化は、カタチあるものに限られません。何かを楽しんだり大事にしたりするライフスタイルも含まれます。近年、徳島市の新町川や眉山周辺で定期的に行われている「マチ★アソビ」は、地域の自然を活かしつつ、アニメやコスプレを楽しもうとする徳島発のエンターテインメントです(アニメは、日本を代表する文化として世界的に注目されています)。この特色あるイベントを続けるために、地元の企業やNPO、自治体は様々な支援をしています。

このように徳島では、グローバルな社会変化の影響を受けつつも、ローカル色豊かな、地域に根差した文化が創造されています。

私たちの町に残されている碑を探して、由来やメッセージの内容を調べてみたい。



マチ★アソビ vol.15 2015年10月開催の運営

- 主催 アニメまつり実行委員会、NPO法人マチ★アソビ
- 協力 徳島市観光協会
- 後援 文化庁、徳島新聞社、四国放送、NHK徳島放送局、エフエム徳島、エフエムびざん、ケーブルテレビ徳島

※これらの組織はどのような思いで協力・後援しているのだろうか。予想しよう。

チャレンジ

あなたの「お勧め・あわ文化」は何ですか。

あなたの「お勧め・あわ文化」が、30年後にも生き残るための作戦を立ててみよう。

県内の博物館(一部)

- 徳島県立博物館
- 徳島県立文書館
- 徳島県立埋蔵文化財総合センター「レキシルとくしま」
- 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
- 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
- 徳島市立徳島城博物館
- 徳島市立考古資料館
- 鳴門市賀川豊彦記念館

※上の博物館を、目的や役割別に分類してみよう。